

〔書評と紹介〕

弘前大学附属図書館編

『官立弘前高等学校資料目録』

―北溟の学舎の資料群―

徳竹 剛

本書は、弘前大学附属図書館所蔵の官立弘前高等学校資料の目録である。以下、本書の内容を紹介するとともに、同資料の構造的把握を試み、書評と紹介の責を果たしたい。まず、本書の構成を示しておく。

口絵

まえがき

第一編 官立弘前高等学校と同校資料

- 一 官立弘前高等学校の歩み (長谷川成一)
- 二 官立弘前高等学校資料の所在と整理の経過 (長谷川成一)
- 三 歴史資料としての官立弘前高等学校資料 (中園 裕)
- 四 官立弘前高等学校資料のなかの太宰治 (山口 徹)

第二編 官立弘前高等学校資料目録

目次

凡例

I 創設・開校・沿革

II 教員等関係資料

III 教務・生徒関係資料

IV 学校財政関係資料

V 初代校長 秋田實氏関係

VI 写真帖・アルバム

VII 雑

(参考) 弘前大学附属図書館「貴重資料の利用案内」

第一編「官立弘前高等学校と同校資料」の一「官立弘前高等学校の歩み」では、一九二二(大正十)年四月に開校し、一九五〇(昭和二十五年)年三月に閉校に至るまでの官立弘前高等学校(以下、弘高)の歩みが簡潔にまとめられ、二「官立弘前高等学校資料の所在と整理の経過」では、弘高資料の整理経過が述べられている。整理される以前の弘高資料は、弘前大学の附属図書館・人文学部・外国人教師館・大学創立五〇周年記念会館の四ヶ所に分散して保管されてきた。今回、整理の対象となったのは、附属図書館と人文学部に保管されてきたものであり、今後は、附属図書館に集約して保管されることになったという。整理作業は二〇〇八(平成二十)年七月末に始まり、目録が作成され、二〇〇九(平成二十一)年六月に本書刊行に至った。なお外国人教師館・大学創立五〇周年記念会館にも遺物・遺品などの資料が保管されている。

三「歴史資料としての官立弘前高等学校資料」では、資料の概要について紹介されている。執筆者の中園裕氏は、全国的に官立高等学校(旧制高校)関係資料の残存状況が芳しくない中において、弘高資料は総点数一〇五五点を数え、各簿冊が継続的に揃っていると捉えているとして弘高資料の全

国的位置を示し、数量的には教員や学生に関する書類と経理関係の帳簿類が多数を占めていると、弘高資料全体について解説している。その上で「文部省からの通達文書」、「沿革関係書類」、「教員関係書類」、「学生関係調査」、「雑誌類」、「経理関係書類」、「写真類」の七分野に分けてそれぞれ紹介し、弘高資料の特質を示している。

四「官立弘前高等学校資料のなかの太宰治」は、一九二七（昭和二）年四月から一九三〇（昭和五）年三月まで弘高に在学した津島修治（のちの太宰治）の関連資料八点を紹介するものである。執筆者の山口徹氏は、津島関連資料として、入学志願に際して撮影された写真、学籍簿や入学者調、成績表などの記載を紹介し、これらの検討を通じて、津島の高校在学時の席次や、夏目漱石につながる弘高の文化的ネットワークの一端を示した。第一編の各章は、いずれも弘高資料を利用するにあたって有益な情報となるものであり、ぜひ一読されたい。

第二編「官立弘前高等学校資料目録」では、弘高資料を冒頭に掲げた七つの主題に分類して編成している。各主題の中には合計五十七項も小項目が立てられており、利用者の興味関心に則した資料検索が可能となっている。

以上が本書の内容である。資料は、整理・公開されることによつて、社会共有の財産となるのであり、本書刊行の意義については多言を要さない。また、本書中で中園氏が、官立高等学校に関する資料集の刊行や研究は、一九七〇年〜八〇年代にかけて行われたが、近年ではそれらの進展は乏しく、資料発掘も進んでいない、そうした中であつて、弘高資料が発掘され、公開に至ったのは非常に大きな意義を持つてしていると指摘

している。評者も本稿執筆に際して、旧制高校の公文書の公開状況について調査したが、資料目録が発行されている、あるいはホームページで目録データベースが公開されているのは、第二高等学校（東北大学史料館）、第三高等学校（京都大学文学書館）、広島高等学校（広島大学文学書館）が確認されたのみであつた。新潟高等学校資料については、新潟大学附属図書館に目録があり、資料閲覧にも応じているという。このほか、第一高等学校（東京大学駒場博物館）、第四高等学校（金沢大学資料館）、第五高等学校（熊本大学五高記念館）、福岡高等学校（九州大学文学書館）などの資料が残されているが、整理作業の途中であることなどにより、目録の発行あるいは目録データベースの公開等には至っていない。

このように、旧制高校関係資料の公開は、進んでいるとは言いがたい状況にある。また各旧制高校関係資料の保存や公開状況に関しては、保存していると思われる機関にあたりをつけて個々に確認するしかない。こうした状況の中で、本書が刊行に至つた意義は大きく、長谷川成一氏をはじめ、弘高資料の整理や刊行に携わつた方々に深く感謝するとともに、有効に利用されることを願いたい。

* * *

次に、弘高資料の紹介を兼ねて、その構造的把握を試みたい。

まず、弘高の事務組織を確認しておく。昭和八年度版『弘前高等学校一覽』に収載されている「校務分掌規程」によれば、弘高の事務組織は、教務課・生徒課・図書課・庶務課・会計課からなっている。

教務課は、学科・課程や教官の分担、試験、授業や休業など、教育そ

のものを扱う。また、教官の勤務の管理も教務課の分掌事務である。生徒課は、生徒の取締を扱う。学籍の管理や寄宿寮に関する事項も生徒課の分掌事務である。

図書課は、図書の保存・整理・購入・貸付など図書の管理を扱う。

庶務課は、職員の進退や服務に関するを中心にし、学校の運営全般にわたって、他の課に属さない一切の事項を担っている。

会計課は、歳入や歳出などを扱う。また、物品や校内設備の管理、雇の進退等についても会計課の分掌事務となっている。

こうした校務分掌を参考に、弘高資料の構造的把握を試みた。その結果が【官立弘前高等学校資料群の構造】である。

ただし、本図は、目録上の記載および「校務分掌規程」から作成したものであり、現物確認を行ったわけではない。また、参照した「校務分掌規程」は昭和八年度版であり、それ以前・以後の組織改正にも対応できていない。こうした限定を付さざるを得ないが、目録の記載の豊富さに助けられ、概ね正しい構造図が描けたのではないかと思っている。仮に資料利用者の手がかりとなることができれば幸いであり、今後、より正確な構造図に書き換えられることを切に願いたい。

* * *

最後に、資料や目録の公開について、若干の要望を記したい。折しも二〇一〇年一月号の『日本歴史』七四〇号の特集は「日本史研究とデータベース」であった。日本史に関する論文や資料に関するデータベースの現況、特にインターネットを利用した公開の進展が紹介されており、歴史研究者にとって有益な情報が多い。有名などころでは、国立公文書

館・アジア歴史資料センターは、公文書の簿冊および件名目録を公開し、資料画像も閲覧できる状況となっている。ちなみに、『弘前高等学校一覽』の一部は、国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで全ページの画像が閲覧できる。評者も旧制高校関係資料の保存・公開に関する情報を得るにあたって、その入り口となったのはインターネットであり、Google等の検索サイトや各図書館のOPACであった。

こうした歴史研究の現況をふまえるならば、本書を元にインターネット公開用の目録データベースを構築することや、資料画像を公開することも、弘高資料の有効活用に向けた、意味のある取り組みとなる。弘高資料が保存・公開されたことの意義は大きく、その成果は本書の刊行という形で世に示されたが、こうした方法に加えて、インターネットを通じて弘高資料の存在をアピールし、その利用促進に向けた取り組みが継続されることを期待したい。そうするだけの価値を弘高資料が持つていることを評者は確信している。

(B5判、九四頁、弘前大学出版会、二〇〇九年六月、三九九〇円)
(とくたけ・つよし 東北大学大学院文学研究科博士課程後期)

【官立弘前高等学校資料群の構造】

教務課	<ul style="list-style-type: none"> ◆教務日誌・日誌 [Ⅲ-2] ◆生徒名簿 [Ⅲ-18] (※厚生補導係1冊含む) <文部省令達関係> [Ⅲ-1] <ul style="list-style-type: none"> ◆当校入学関係文部省令達 ◆本省令達書類類 (※厚生補導係1冊含む) ◆文部省令達進達書類類 ◆各表綴 (在学生徒志望調・学科課程表・時間割等) [Ⅲ-28] <成績関係> [Ⅲ-14・Ⅲ-15] <ul style="list-style-type: none"> ◇学業成績表 ◇判定会議成績表 ◇成績考査原議綴 等
生徒課	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学者写真帖 [Ⅵ-1] <入学生徒調査関係> <ul style="list-style-type: none"> <(入学生徒)関係書類類> [Ⅲ-6・Ⅲ-7・Ⅲ-8・Ⅲ-9・Ⅲ-10・Ⅲ-12・Ⅲ-13] <ul style="list-style-type: none"> (昭和5以前) <ul style="list-style-type: none"> ◆戸籍謄本綴 ◆卒業・修了証明書綴 ◆入学者調査書 [Ⅲ-4] ◆性行調査書 [Ⅲ-5] (昭和6以降) <ul style="list-style-type: none"> ◆家庭調査書簿 ◆在学証書類 ◆資格証明書綴 ◆在学誓書綴 ◆関係書類類 <学籍異動関係> [Ⅲ-19・Ⅲ-20・Ⅲ-21・Ⅲ-28] <ul style="list-style-type: none"> ◇学籍簿 ◇生徒学籍簿 (退学・除籍者学籍簿) ◇除籍者ニ関スル書類類 ◇除籍者・退学願書綴 ◇退学者ニ関スル書類類 ◇生徒改姓転籍届書綴 ◇死亡者ニ関スル書類類 ◇休学及休学解除願書類類 <卒業生・中退生性格調査> [Ⅲ-11] <ul style="list-style-type: none"> ◇卒業生性格調査表綴 ◇中退生性格調査表綴 <処罰関係> [Ⅲ-16] <ul style="list-style-type: none"> ◆処罰関係書類類 ◆処罰録 ◆被処分生徒名簿 (校外) ◆全国高等専門学校処罰綴 ◆文部省関係書類類 [Ⅲ-1] ◆他高等学校寮費食費其他ニ関スル回答書 [Ⅲ-28] ◆評議会決議録 [Ⅶ-3]
図書課	<ul style="list-style-type: none"> ◆学徒勤労報国防用図書目録 [Ⅲ-22] ◇勤労報国防用編成図書未選調 [Ⅲ-22] ◇(第一回)疎開図書目録 [Ⅶ-1] ◇図書返納督促者名簿 [Ⅶ-1]
庶務課	<ul style="list-style-type: none"> ◆庶務日誌 [Ⅲ-3] <職員任免関係> [Ⅱ-1] <ul style="list-style-type: none"> ◇高等官任免関係書類類 ◇判任官身分進退関係綴 ◇講師身分進退関係綴 ◇備外国人教師雇傭契約関係書類類 ◇備外国人教師に関する綴 <職員履歴書> [Ⅱ-1] <ul style="list-style-type: none"> ◇判任官以下履歴書綴 ◇教官履歴書 ◇嘱託講師履歴書 ◇前職員履歴書綴 ◇官等陞叙関係綴 [Ⅱ-1] ◇叙位叙勲関係綴 [Ⅱ-1] ◇勤務命令簿 [Ⅱ-3] ◇教員無試験検定書類類 [Ⅱ-1] ◆本校創設ニ関スル寄附者 [Ⅰ-1]
会計課	<ul style="list-style-type: none"> <歳出推算簿> [Ⅳ-3] <ul style="list-style-type: none"> ◇經常部歳出推算簿・歳出推算簿 ◇臨時部歳出推算簿 <支出簿> <ul style="list-style-type: none"> <学校及図書館特別会計> [Ⅳ-1・Ⅳ-2] <ul style="list-style-type: none"> ◇支出簿 (学校及図書館特別会計) ◇支出内訳簿 (学校及図書館特別会計) <一般会計> [Ⅳ-1] <ul style="list-style-type: none"> ◇支出簿 (一般会計) ◇支払命令官歳出内訳簿 <歳入徴収簿> <ul style="list-style-type: none"> <学校及図書館特別会計> [Ⅳ-9] <ul style="list-style-type: none"> ◇歳入徴収簿 (学校及図書館特別会計) ◇歳入徴収内訳簿 (学校及図書館特別会計) <一般会計> [Ⅳ-9] <ul style="list-style-type: none"> ◇歳入徴収簿 (一般会計) ◇歳入徴収内訳簿 (一般会計) <他、支出入関係> [Ⅳ-1・Ⅳ-2・Ⅳ-5・Ⅳ-7・Ⅳ-10・Ⅳ-11] <ul style="list-style-type: none"> ◇歳出簿 ◇旅費書留簿 ◇現金出納簿 ◇歳入歳出外現金出納簿 ◇配当予算差引簿 ◇仕払元受高差引簿 ◇歳出概算渡整理簿 <財産・資金関係> [Ⅳ-12] <ul style="list-style-type: none"> ◇国有財産台帳 ◇公用財産 ◇資金台帳 ◇不動産資金台帳 ◇維持資金土地建物ニ関スル綴 等 <物品管理関係> [Ⅳ-4・Ⅳ-6・Ⅳ-8] <ul style="list-style-type: none"> ◇物品出納簿 (在庫) ◇物品出納簿 (消耗品) ◇消耗品出納帳 等 <雇員任用関係> [Ⅱ-1] <ul style="list-style-type: none"> ◇雇員命令簿 ◇雇員身分進退関係綴 ◇臨時職員任用関係綴 等

『官立弘前高等学校資料目録—北浜の学舎の資料群—』(弘前大学附属図書館、2009年)に掲載されている目録に従って作成した。分課は、昭和8年度版『弘前高等学校一覽』記載の「校務分掌規程」に従った。図中の〔 〕内の数字は、上記目録の分類番号である。図中の< >は本図作成者が付したシリーズ名である。図中の◆および◇は、ファイル名である。◆は、上記目録の記載から、作成・保管課を確定した資料であることを意味する。◇は、上記目録からは作成・保管課が確定できないものであり、目録の記載および同校の校務分掌規程などから作成・保管課を推定した資料であることを意味する。資料総点数1055点のうち、本図に含まれている資料点数は873点である。Ⅰ創設・開校・沿革やⅢに含まれている校友会・同窓会関係、ノート・教科書類、北浜寮関係、Ⅴ初代校長秋田實氏関係、Ⅵに含まれている写真類などは本図に含まれていない。